

THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

夢をかたちに
国際ロータリー会長 李東建
Make Dreams Real



和の心を深め合おう
富津中央 RC 会長 高島治雄

2008 ~ 2009

国際ロータリー 第 2790 地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

2079 第10回例会 2008.9.16 曇

点 鐘 : 高島治雄 会長 富津中央 RC
進 行 : 平野秀和 SAA 木更津東 RC
ソング : 君が代・奉仕の理想
浜名宏行 ソングリーダー - 富津シティ RC
来賓紹介 : 小幡 倅 会長 君津 RC
会長挨拶 : 鈴木克己 会長 木更津東 RC

10:00 ガバナー・会長・幹事懇談会
12:00 食事
12:30 合同例会
13:30 記念撮影
14:00 合同クラブ協議会
16:40 懇親会

ガバナー公式訪問挨拶

崎山征雄 ガバナー



本日は、4クラブ合同公式訪問です。昨年度白鳥 PG は合同公式訪問はクラブ間の長所が良く見え情報の共有化も進みクラブの活性化に資するものが多く非常に良かったと強調しておられました。

合同公式訪問の実施は 2001 - 02AG 制度導入と同時に、DLP の理念により始まったもので、その後、クラブ活性化を目的とした CLP 導入の推進がはかられ、合同公式訪問の有効性が確認されました。ただ、合同方式が良いのか、単独方式が良いのかは時代の変化と共に推移するもの、10年後にどうなるのかは、その時の状況の中で判断し、決まるものと考えます。

現在 RC の世界的な環境は間違いなく大きく変化、変革、前進しております。我々も黙って見ているのではなく、大胆に挑戦するべきと考えますが、ただロータリーは、変化すれば良いというものではありません。変えてはいけないものはロータリーの原点をふまえて判断し、改革すべきものは改革し、守るべきものは守る姿勢を明確にする必要があります。

そのためにも大事なことは、広く地区内外のリソースの共有をする必要があります。今、日本のガバナー34人は独自の ML(メーリングリスト)を作り運営しています。そのなかでガバナー同士の率直な情報・意見交換が活発に行われています。

〒293-0042 富津市小久保2868
さざ波館 Sazanami-kan
2868 Kokubo Futtsu-shi Chiba-ken,
Zip code 293-0042
Tel.0439-65-3373 Fax 0439-65-3304
URL <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~fcr>



2790 地区でも今年クラブ会長専用の ML を作成しました。その活用が活発になり、地区内クラブのリソースの共有化が進み、クラブエネルギーが高まり、真の友情と増強を広く地区内で達成できる事を信じております。

さて、ロータリーの本質とは何でしょう。私は「RC の心と原点を大事に」と話しています。原点とはいうまでもなく四大奉仕です。まずクラブサービス、これは出席そのものです。クラブに出席する。委員会に、親睦会に、地区委員会に、国際大会に広く内外のロータリー行事に出席し、そこから広く情報を得てクラブへ持帰り報告する。多くの友人を集め、増強を推進する。これがクラブサービスの本質です。

次に職業（ボケーション）サービス、自分自身の職業を倫理観を持って全うする。仲間の職業にサービスする。世の中の職業すべてに倫理観を持って接する。これができれば、自然とそこから社会奉仕、国際奉仕の理念が生まれます。現在世界中に展開しているポリオプラス、発展途上国への様々な援助活動などなどです。これがロータリーのボランティアなのです。

本年度、李東健（D.K.Lee）RI 会長のテーマは “ Make Dreams Real ” 「夢をかたちに」です。RI の強調事項である水、保健と飢餓救済、識字率の問題、そしてポリオの絶滅へ向けての取り組みの強化と、今 5 才児未満の児童が世界的に 1 日 3 万人も死亡している事実に対して、その死亡率を減少させることができる事業に光をあてて強力に推進してくださいとお願いいたしました。

今年度 2790 地区ではロータリーは「親しい友人の集まりである」という、心と原点を大切に、「日本人の和の心、それを支える武士道精神」で “ Make Dreams Real ” : 夢をかたちにしたいものと提言いたします。武士道精神とは古来、日本人の心の中にある倫理道、己に恥じず、弱く小さなものを守り、大きく強きものに立ち向かう。美しく生き、美しく死ぬという、西洋の騎士道と相通ずるもので、その中には、武士たるもの、騎士たるものには、ノーブレス・オブリージェという「武士の掟」ロータリアンと同じボ

ランティア・スピリットがごく当たり前に存在します。それをより深く浸透させ、ロータリーの基礎にサービスをすえた、アーサー・フレデリック・シェルドンの提唱した幸福の三角形（彼の墓に掘込まれている）その左辺は愛情であり友情でありサービスの心、思いやりの心は友人からの愛情につながります。右辺は良心であり自分のプライド、サービスとは相手を思いやり、相手の為になる行為をする事で他人からの尊敬をも得られます。下辺にはお金がきます。これは物質的繁栄です。サービスの精神は長い目で見れば事業を繁栄させ、相手を思いやり、相手の為になる行為をする皆に収入が増える。これがロータリーの真髄、考え方です。そして三角形の中心に「幸せ」「仕合せ」が形成されるのです。幸せになったなら、その手に余る幸せを周囲の不幸せな人々に分かち与えるこれが真のロータリーボランティアでありサービスの理念であります。

CLP についての考え方ですが、現在 RI は、積極的に推し進めています。その目的は世界の RC の活性化です。その為 2007 年度標準クラブ定款、細則が大幅に変更されました。どうか内容を皆様でよく読み、討論し、検討し、より良いクラブ細則を自らで、作ってください。自ら作ることが出来るということが最大の特色です。

すこし横道にそれますがロータリアンの皆様は地域で成功した実業家です。個人的な欲求の旺盛な方々、このような意欲的な皆様こそ公共心、奉仕の精神が本来旺盛なのです。

そこで皆様の善意を成長させ、実行の機会を提供するのがロータリーなのです。

で「善意」とはなんでしょう？善意とは人間同士の思いやりの気持ちで、その反対は「悪意」となりますが、むしろ「利己心」というべきでしょうか、では利己心とは何か、それは、自己保存の本能とつながる人間の生命線であります。生存競争に打ち勝って生きるにはこの利己的欲望が強い必要があります。しかし人間は社会的動物ですから 1 人ではできません。このため生まれるつながり関係がいわゆる縦割りの人間関係で

す。即ち親分 - 子分、先輩 - 後輩、上司 - 部下、雇い主と使用人の関係です。生活そのものに直結した縦の関係は極めて強靱ですが、人間関係には横の関係があります。隣人愛、友情、などの仲間意識です。悲しみ、喜びを友と分かち合う、困る人々を見ると助けてあげたいという気持ち、この横のつながりの絆をなすものが「善意」なのです。縦割りの社会は厳しく、すさんだものです。横のつながりの存在によって初めて心が和み、平和な生活ができる温かな社会をつくる事ができるのです。織物にたとえば利己心は、縦の糸、善意が横の糸。縦糸がしっかりしてなければ丈夫な織物はできません。しかしそこへ適当な横糸を織り込む事によって、布の温かさも模様的美しさも織り出されるのです。この調和を生み出すのがロータリーの目的なのです。どうか温かく、美しい、やさしい社会を、創りましょう。

最後にご紹介したいのは武士道の道徳が「大和魂」と表現する素晴らしい歴史そのものです。本居宣長「敷島の大和心を人問わば 朝日に匂う山桜花」
吉田松陰「かくすれば かくなるものと 知りながら やむにやまれぬ 大和魂」
これぞ武士道、大和魂 頑張りましょう

ニコニコ BOX

原田雅式 親睦副委員長

高島治雄	会員	崎山ガバナーをお迎えして
佐藤信泰	会員	〃
千葉一利	会員	〃
榎本守男	会員	〃
原田雅式	会員	〃
石渡 鋼	会員	〃
伊藤一夫	会員	〃
刈込碩弥	会員	〃
三井 進	会員	〃
永島 強	会員	〃
大網庄一郎	会員	〃
志波 克	会員	〃
渡辺 務	会員	〃

三枝一雄 会員 この度、病院設立 40 周年記念式典を開催し、この機会に院長も交代いたしました。高島会長にも式典に出席いただき、ありがとうございました。

* > 1,000 円 合計 15,000 円

出席報告

原田雅式 出席委員長

区分	会員数	出席	欠席	MakeUp	出席率
今回	19	19			100%
前回	19	16	3		84.21%

点 鐘：遠藤和夫 会長 富津中央シティ RC

合同クラブ協議会

進 行：鈴木正毅 幹事 木更津東 RC
開会の言葉：高島治雄 会長 富津中央 RC

ガバナー補佐挨拶

石渡 鋼 第 4 分区ガバナー補佐



みなさんこんにちは、先のクラブ訪問に際しましては御歓迎を頂ありがとうございました。本日は 2790 地区初めての 4 クラブ合同ガバナー公式訪問と云うことで、いささか緊張いたしておりますが、クラブ訪問で感じましたこと、そ

れは出席規範が薄れ、メイクアップが極端に少なくなった近頃、大げさに言えば鎖国状態の中で各クラブが独自の文化、いや独特の気風を創りつつあるのではと云うことでした。

思えば本年2月頃、今日の概要を決めさせていただいたわけですが、何分にもあの頃は分区の会長幹事さんも知らず、孤独感に苛まされていたときでしたが、どうしたら出席されるみなさんに貴重な時間を潰す対価として「良かったよ」と思っていたいただきたく、この合同例会は従来の協議会スタイルを止め、他のクラブを理解していただき、1人でも多くの他クラブの人の顔を覚えていただきたく、「人」にスポットを当て「あのクラブにこの人あり」の卓話をお願いすることで、岐山ガバナーと調整を図り本日となりました。

皆さんのご静聴をお願いいたしましてご挨拶といたします。有り難うございました。

各クラブ発表

富津シティRC 遠藤和夫 会長

浜名宏行 会員「天網恢恢、祖にしてみらさず」

君津RC 小幡 倅 会長

小幡 倅 会長「君津RCの奉仕活動」

富津中央RC 高島治雄 会長



当クラブの現況は、18名からスタートし7/17に1名増の19名（小規模クラブ8の中の1）、会員増強にあたっては、20名を超えることを

強力目標（11年前の1度目の会長時には42名）。

今までクラブフォーラム等を通して会員候補までは出るが、ここから尻尾切れとなってしまう。推薦者は誰、入会へのアプローチ役は誰と具体化して進めたいと考えます。また、会員増強のための炉辺会合、フォーラムを2ヶ月に1度は行いたい。

クラブ運営にあたっては、小規模クラブなればこそそのメリットを生かし、ロータリー誕生の原点である（親しい人々の集まり）和の心を深め合う活動を当クラブの良さの売り物にしたいと考えます。そして、その良さが会員増強に繋がったり、会員相互の自己啓発を促したり、ロータリー活動への意識と積極性に導かれることを望みます。

そのために特に私が重点にしたことが、年間プログラムの充実を図り、SAAとの共通理解のもとに、豊かな例会づくりを心掛けることです。

- (1) 年間1回は、会員の卓話をプログラム
- (2) 親睦の会の充実（家族例会）
- (3) クラブフォーラムの定例化（2ヶ月に1度）

R I テーマの "Make Dreams Real" へのアプローチも深めます。

- (1) 会員の認識を深め合うこと
- (2) 会長挨拶の中で、意識的、組織的に取り上げる努力
- (3) 可能な範囲での財政的支援（ポリオ・財団・米山）
- (4) 外部卓話を要請し、更に意識を深める。
- (5) 地域への働きかけを進め啓蒙を図る。

C L P への考え方

クラブ組織を改変し、C L P による小規模クラブ活性化のための過渡期として、定款・細則等は変えないが、いくつかの委員会を同じ会員が担当するよう工夫しています。たとえば、職業分類・会員選考・増強委員会をまとめて同じ人員構成にしたり、出席委員会と親睦委員会を委員長は別だが構成を同じにしたり。

国内外（山梨：塩山RC、台湾：嘉義南RC）姉妹クラブとの交流を深め、親睦を図っています。

三枝一雄 会員「家族の絆」



富津中央RCの三枝でございます。私は職業分類では「病院経営」となっておりまして、富津市青木にある（医）三友会三枝病院と老人保健施設ケアセンターさきくさの理事長という任にあります。実は一昨日9月14日に病院開設40周年を迎え、私自身も丁度後期高齢者になりましたことを節目と思い、院長を倅に譲り、5歳の孫娘から花束を貰ったばかりです。当日は当クラブ高島会長にも出席して頂きました。倅と申しましたが、実は私ども夫婦には実子がなく、養子夫婦を迎えております。医師不足や病院経営の厳しい時代に、どうして医者の子を迎えられるのか、またどうして病院長の職を引き受けてくれるようになったか、そのあたりのことを「家族のきずな」と題してお話ししようと思います。

養子を貰わないか。

ある晩のことでした。私どもの家に泊まれた客人、実はモラロジーという道徳を中心とした総合人間学を学ぶ社会教育講師のお一人ですが、「お宅に子供はいないのか」と尋ねられました。そして「病院を経営しながら道徳を学んだり、地域に社会貢献をしている人は貴重な存在である。どうだ。養子を貰って跡を継いでもらい、もっと広く社会に役立つ人になってくれないか」といわれました。私は目の前の紳士が暖かく品性の高い人物と見受けられたのとお酒が入っていたこともあってつい「ハイ、お願いします。」と言ってしまいました。その晩はそれで

休みましたが、酔いが覚めると何故か興奮して寝付かれませんでした。“待てよ。養子が外れたら大変だ。財産全部持って行かれたという話を聞いたこともあるし、えらいことになったな”と思いました。それまで私は妻に「なあに。子供なんて授かりものだから、無理することはないんだ。いればいたで苦勞。いなけりゃいないで気楽なものよ。いざとなったらこの病院を売り払って、高級マンションに住み、毎日旨いものを食べさせてやるから心配するな。その上豪華な海外旅行に連れて行ってやるから、だまって俺についてこい」と言っておりました。ところが、モラロジーを学び、ロータリーの会員になってみると、どうもそれで幸せになるという教えはないのです。「超我の奉仕」どころかそれでは「超自己に奉仕」であり、最も奉仕しない人が最も報いられるはずもありません。そこで改めて私の心得違いに気付きました。自分は生まれてからおしめを替えてもらい日本語を教わり、病気になるれば徹夜で親に看病してもらいました。また一人前の医者になり、病院を開いて今日に至るまでどれほど多くの恩人の世話になってきたかわかりません。そうした借りも返さずに面白可笑しく人生を過ごせるわけがありません。そうだ。養子が外れたら等と先の心配はいりません。人様のお子を頂いて育てる、何かと楽をするより犠牲を払う覚悟があればいいのです。やっとわかりました。妻もそれで納得してくれた為、翌日は改めてお願いを致しました。これで養子を貰う肚が出来たのです。約30年前の事でした。

念ずれば花開く

坂村真民の言葉どおり、途中の紆余曲折は省きますが、養子の候補が現れたのです。愛知県からわざわざ三枝病院で胃癌の手術をする為にこられた患者につき添ってきた20歳に満たぬ青年でした。縁あって医学を志し、大学を卒業すると私がお世話になった千葉大学第一外科で修業することになったのです。そこで週に一日三枝病院に手伝いに来る事に決まりました。そこで夜はご馳走を造り家内と一杯もてなすことにしました。ところが彼はなかなか決心がつか

ないようです。私は妻に提案しました。「俺たちは尊敬できる親にならなければならない。なあと。週に一度、まね事でいいから、理想の夫婦像を演ずることにしよう」早速妻は忠実に実行します。「ほんとうに。お父さんの言う通りよ」（笑い）いや、やってみて呼吸が合うとなかなか気持ちのいいものです。これを繰り返しているうちに、我が家ではいつしか夫婦げんかがなくなってきました。うそから出たまこととか、彼がおいそれと返事をしないで長引かせたおかげとも言えましょう。

琵琶湖の麦秋

ようやく彼の学位論文がまとまった頃、何回も繰り返した見合いの中からはじめての意中の人に会ったのです。話はとんとん拍子に進み、結納を交わす所まで漕ぎつけました。相手は滋賀県長浜の娘です。丁度、琵琶湖に近い麦畑に初夏の日差しが輝いていました。ふと私は小津安二郎の映画「麦秋」を脳裏に描きました。豊かに稔る麦畑の中から花嫁衣装の原節子さん、いや我が家の嫁となるべき佳人の姿が現れることを想像しました。“とうとうやった。子供のいない夫婦に二人で養子にしてくれる人がいる。なんて有り難いことだろう。ここまで努力してくれた人々に何てお礼申し上げたらいいのだろう”私はあふれ出る涙をこらえることが出来ませんでした。

ダルマの目

結婚式が済むと神社に報告し、同じ市内で私の母の住む家に挨拶に行きました。開業医であった父の死後、母は一人で旧家を守って生きてきたのです。母は神棚からやおら古いダルマを取り出しました。「このダルマは一雄(私のこと)が結婚したときに一つ目を入れて、孫が出来たらと思っていたら、今日になってしまったからこんなにすすけてしまったの。今から二人で目を入れておくれ」若いカップルが代わる代わる筆を取る姿を見て母はどんなに喜んだことでしょう。「アア、これで私は安心してお父さんの所へ行ける。代々続いたこの医者の家がこうして

続くことが出来るのは本当に嬉しい」と言って涙をこぼしたのです。私達夫婦には子供はまだかなどと言ったことのない母の真の心に触れて、親不孝を大いに反省しました。同時にそれを補ってくれた新しい孫達の存在が我が家にどれほど貴重なのか改めて知った次第です。間もなく二所帯住宅で共に暮らす日がやって来ました。何があっても感謝です。嬉しいのです。子供のいた人には想像の出来ない喜びです。「ただ今」と言って帰る人がいる。今までは皆こんにちはという人ばかりだった。「云って参ります」というだけでうれしい。今までは皆「さようなら」でした。さて、こういう感謝の日々が続けば真に理想の親ですが、歳月は次第に人間をわがままに戻します。“まだ夕飯にならないかな”“もう少し関東風の味にならないかな”こんなことを不平不満に思うとは何だといわれそうですが、こころ変わるのが人間の心だといえます。ここで初心にかえて反省します。妻と互いに「有り難いなあ」とうなずきあい、心を新たにします。こうして血の繋がらない家族のきずながいつしか本物に結ばれていくのです。

祈りのDNA

さて、家の中は円満に治まっても、今度は孫がなかなか出来ないのです。最初は「まあ急ぐな。オレに出来なかったことがそう容易しく出来るわけではないのだ」等と書いていました。ところが5年経っても10年経ってもその気配がありません。当事者は勿論ですが、さすがに私達も心配になりました。それほど信心深いわけではありませんが、かなわぬ時の神頼みで神仏に祈りました。特にモラロジーの学祖である鴻池千九郎の墓前では熱心に祈りました。やがて皆の努力が通じたのか、女の子が授かりました。そのことについては、娘の母となった嫁の倫子のエッセイ(註)を読み上げたいと思います。

(祈りのDNA 三枝倫子)

// 「あら、おばあちゃん似ね！」娘の誕生のその日、周りの皆が言った。最近「やっぱりパパ似ね。でも、おじいちゃんにもっと似ている

かな！」とよく言われるようになった。こまでは、どこの家にもありそうな会話である。しかし、私達夫婦はこの両親と血のつながりはない。子供のいない両親の元へ来た夫婦養子なのである。私達や互いの実家の両親に似るはずの我が子は、養父母にそっくりなのである。なんとも不思議な遺伝である。養父母には子供がなく、私達も結婚以来12年間子宝に恵まれなかった。この間、父母はどんな思いで祈り、願いつづけてくれたことであろうか。そっと子供の寝顔にきいてみた。すると、どこからか声が聞こえてきた。「あのね、パパ達は12年だけど、おじいちゃん達は40年近くも私の誕生を待っていてくれたのよ。神様がそれをけっして忘れちゃいけないよって、そして家族仲良くおやりよってみんなに似せてくれたのよ。」家族のきずながけっして『血』だけではなく、『思い』や『願い』で結ばれることを教えてくれた神様に心から感謝したい。そして娘にもいつの日か同じ感激を味わって欲しい。//

おわりに

こうして孫を囲んで団欒の日々を迎えられるとは想像もしていませんでした。また倅夫婦も子育てを通して次第に地域社会になじみ、医師会や保育園の親達との交流が深まりました。二人とも地域に貢献する役割を担う自覚も出来てきたようです。こうして病院運営という責任ある仕事も引き受けてくれるようになったのです。ふりかえって私自身、モラロジーやロータリーを通じて、自分の職業以外の人々と出会いがあり、多くの奉仕活動の実践を学ぶことが出来ました。その中から家族のえにしが生まれ、またそのきずなが固く結ばれることを教えられたのです。まことによき師に導かれ、よき友にはげまされ、さらによき人生哲学を僅かながらも実践に生かすことによって、今日があることを心から感謝して今日の卓話を終わらせて頂きます。

(註) このエッセイは財団法人モラロジー研究所主催第15回全国生涯学習フェスティバルまなびピア沖縄2003参加事業「家族のきずな」工

ッセイ応募「優秀賞・琉球新報社賞」受賞作品です。

木更津東 RC 鈴木克己 会長

青木和義 会員「会員増強について」

ガバナー講評：崎山征雄 ガバナー

開会の言葉：小幡 倅 会長 君津 RC

懇親会





エンターテインメント

例会場以外の例会が続くので今回のクロスワードはお休みとします。

前回(9/11)の答は

「ポールハリス」でした。

ポ	ツ	チ	ヤ	リ	■	カ	ラ	ス
■	ジ	ヨ	ブ	■	キ	ミ	ジ	カ
オ	■	ウ	■	ゲ	ン	ナ	オ	シ
ア	フ	リ	カ	■	ノ	リ	■	エ
フ	ツ	ツ	チ	ユ	ウ	オ	ウ	■
ト	ツ	■	ド	■	ハ	ヤ	リ	メ
ウ	シ	ロ	キ	ズ	■	ジ	ダ	ン
■	テ	■	バ	シ	ヨ	■	シ	バ
オ	イ	ル	シ	ヨ	ツ	ク	■	ー

編集後記

残念なことに今回の合同例会は、直前になって出席できなくなってしまいました。

今月は、会報担当なので、原稿を佐藤幹事と志波会報委員長に取りまとめていただきました。有り難うございました。

40周年記念誌の製本など行いながらの会報作成だったので、少し時間がかかってしまいましたが、三枝会員の卓話をタイプしていると、会場で三枝先生が話している様子が目に浮かんでくるようで、相変わらずの含蓄ある内容に感動を覚えました。私のような若輩者では、実践できない日々の弛まぬ努力の様子と、行間から伺い知るその清廉な性格、そして知識の深さに改めて感銘を受けた次第です。

石渡ガバナー補佐の言葉を借りれば、まさに「富津中央 RC に三枝あり」といったことでしょう。

高橋裕之